

研究ノート

三重県多気町におけるカヤネズミ *Micromys minutus* の春季の営巣記録

Records of spring nesting of the harvest mouse, *Micromys minutus*, in Taki, central Mie Prefecture, Japan

田村香里¹⁾・佐野 明²⁾

¹⁾ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館

²⁾ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館 研究協力者

キーワード: ネズミ科, 麦畑, 球巣, 営巣習性

(2023年9月20日 受付)

Kaori Tamura* and Akira Sano

^{1,2)} Mie Prefectural Museum, 3060 Isshinden-kouzubeta, Tsu, Mie 514-0061, Japan

*corresponding author: tamurk02@pref.mie.lg.jp

Abstract

Spherical nests of the harvest mouse, *Micromys minutus*, were found at spring-grown wheat fields and surrounding grasslands between April and May 2023 in Taki, central Mie Prefecture. This observation proves that the harvest mice breed also in spring in this area, which means that in Mie Prefecture, the harvest mice may continuously breed from spring to late autumn.

Key words: Muridae, wheat field, spherical nest, nesting habit

はじめに

カヤネズミ *Micromys minutus* は、国内では本州中部以南、四国および九州に分布し (Iwasa, 2015), 三重県では海岸付近から標高1100 mを超える山地まで広く分布する (清水, 2014).

本種は春から初冬にかけて、イネ科植物等に球状の巣 (球巣) を作り、そこで出産、哺育を行う (白石, 1962, 1965, 1969; 澤邊ほか, 2005; Hata, 2011). 本種の繁殖サイクルは、春季と秋季にピークを迎える2山型で、夏季の繁殖は稀とする報告もあるが (金子, 2005), 三重県における本種の確認記録を整理した資料 (清水, 2014) によれば、球巣発見事例の約半数は8月に集中しており、春季の営巣確認例はほとんどない。

筆者らは前報 (田村・佐野 2023) で、三重県中部の複数のコムギ畑 (以下、麦畑) において5月下旬～6月上旬に本種の球巣を確認したことを報告したが、今回、三重県多気町の麦畑とその周辺草地において、4月および5月に本種の営巣を確認したので報告する。

本文に先立ち、多くの球巣を発見し、情報を提供してくださった三重県総合博物館ミュージアムパートナーの大久保律子氏、大久保一成氏、野外調査にご協力くださったNPO法人大杉谷自然学校の井元俊介氏、本稿に対し、貴重なご助言を賜った東京女子大学の石井信夫名誉教授に深謝する。

調査地および方法

調査地は、三重県中部に位置する多気郡多気町五佐

奈の5枚の麦畑と周囲の草地 (34.56° N, 136.56° E) である (図1)。ここは1級河川佐奈川畔にあり、コムギは2022年10月と12月に播種されている。

調査は2023年4月27日、4月29日、5月4日、5月5日および5月22日に行われた。各調査日には麦畑および周囲の草地を踏査し、球巣の確認に努めた。麦畑では周囲の畦だけでなく、条間も歩いて調査した。巣を発見した際には、球巣の直径、下端の地上高、営巣植物種とその草高を記録した。4月27日時点でコムギの草高は90~120 cmに達しており、畦にはネズミムギやエノコログサをはじめとするイネ科植物やスギナなどが

繁茂していた。なお、コムギは5月28日以降順次刈り取られた。

結果と考察

調査結果を表1に示す。4月27日に麦畑で1個、周囲の草地で4個、5月22日に麦畑で2個、その周囲で1個、合計8個の球巣を確認した (図2)。4月29日、5月4日および5月5日には新たな球巣を発見することはできなかった。また、発見した8個の巣内で幼獣を確認することはできなかった。4月27日に確認された4巣のうち、周囲の草地で発見された巣はいずれもきわめて新しいも



図1. 調査地全景 (三重県多気町五佐奈) 2023年5月22日撮影

表1. 三重県多気町五佐奈のコムギ畑およびその畦で確認されたカヤネズミの球巣 (2023年)

No.	確認日	営巣植物	草高	球巣の高さ*	球巣径
1	4月27日	ネズミムギ	81	24	9
2	4月27日	イネ科sp	82	34	7
3	4月27日	イネ科sp	87	32	7
4	4月27日	イネ科sp	110	57	—**
5	4月27日	コムギ	113	30	7
6	5月22日	ネズミムギ	130	60	8
7	5月22日	コムギ	97	50	7
8	5月22日	コムギ	95	47	9

単位はいずれもcm。

*: 球巣の下端の地上高。 **: 未完成の巣であり、計測不能。



図2. 多気町五佐奈のコムギ畑およびその畦で確認されたカヤネズミの球巣 (2023年4月27日撮影)

a, ネズミムギに営巣された球巣 (葉はまだ新鮮で緑色である); b, コムギに営巣された球巣 (矢印); c, コムギに営巣された球巣 (一部の葉には緑色が残る); d, 営巣途中で放棄されたと思われる巣 (コムギ).

ので、巣材はまだ緑色であり、営巣直後であると思われる。コムギに営巣された巣では巣材はほとんど褐変していたが、一部にはまだ緑色の部分も残っていた。さらに、4月27日には麦畑において、営巣途中で放棄されたと思われる巣 (図2d) も4個確認した。これらはコムギに切り裂いたコムギの葉が絡められており、いずれも巣材はまだ緑色であった。

一方、5月22日に確認された3巣については、巣材はすでに褐変し、少なくとも営巣後数日以上経過しているものと思われた。

これまでに三重県では5月以降11月まで、7月を除く各月に巣内の幼獣が確認されている (清水, 2014; 田村・佐野, 2023)。加えて今回の調査で4月の営巣も確認されたことから、三重県において、本種は春季から晩秋にかけて継続的に繁殖していることが示唆された。

引用文献

- Hata, S. 2011. Nesting characteristics of harvest mice (*Micromys minutus*) in three types of Japanese grasslands with different inundation frequencies. *Mammal Study*, 36: 49-53.
- Iwasa, M.A. 2015. *Micromys minutus* (Pallas, 1771). In: (S.D. Ohdachi, Y. Ishibashi, M.A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, eds.) *The Wild Mammals of Japan, Second Edition*. pp.170-171. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- 金子之史. 2005. 齧歯目Rodentia ネズミ科. In: 日本の哺乳類 改訂版 (阿部 永, 監), pp.125-144. 東海大学出版会, 秦野.
- 澤邊久美子・畠 佐代子・夏原由博. 2005. 堤防植生の刈り取りがカヤネズミの営巣に与える影響. ラン

- ドスケープ研究, 68: 571-574.
- 清水善吉. 2014. 三重県におけるカヤネズミの分布. 三重自然誌, 14: 76-82.
- 白石 哲. 1962. カヤネズミの繁殖習性 I 出産期と産仔数. 九州大学農学部学芸雑誌, 20: 87-94+2 pls.
- 白石 哲. 1965. 日本の哺乳類2 齧歯目カヤネズミ属. 哺乳類科学, 5: 1-15.
- 白石 哲. 1969. 九州産カヤネズミの営巣習性. 林業試験場研究報告, 220: 1-10+4 pls.
- 田村香里・佐野 明. 2023. 三重県中部におけるカヤネズミ *Micromys minutus* の繁殖習性に関する若干の知見. 三重県総合博物館研究紀要, 9: 1-4.